

令和5年度第3回三重県国民健康保険運営協議会 概要

日時 令和6年2月26日（月）18時～19時

方法 オンライン形式（Zoom）

出席委員 9名

【被保険者代表委員】 濱口浩代、中村英子

【保険医等代表委員】 馬岡晋、前田圭司、増田直樹

【公益代表委員】 伊藤正明、長友薫輝

【被用者保険代表委員】 内藤誠、大西伸幸

議題1 第2期三重県国民健康保険運営方針（最終案）について

【議題1資料，議題1別添】

最終案策定までの経緯、最終案、今後のスケジュールについて説明し、原案に同意するとの答申を得ました。

議題2 保険料水準の統一に向けたロードマップ（最終案）について

【議題2資料】

中間案からの修正箇所、納付金の算定プロセス、年度工程表について説明し、原案に同意するとの答申を得ました。

（質疑応答）

・市町の取組の中の保険料算定方式の4方式から3方式への統一に関して、これによって想定される混乱・問題点は何か。

⇒（事務局）

市町によっては、保険料による収入を資産割に頼っているところがある。資産割をなくすことによって、資産割による収入分を所得割などに転嫁をしていくことにより、急激に保険料が上がる可能性があり、被保険者の負担が急激に増える懸念がある。県としては、段階的に資産割の率を低くして、最終的に資産割を廃止していただければよいと考えている。

・そういった市町は何市町くらいあるのか。その市町の財政規模はどれくらいか。

⇒（事務局）

資産割が残っているのが、14市町ある。北勢の財政規模が大きい市町は、資産割を廃止しているが、どちらかというところ、財政規模が小さい市町、被保険者が少ない市町、特に南のほうに資産割が残っている。今後、資産割の割合が高い市町については、計画的に資産割をなくしていき、廃止していただく必要がある。

・資産割をなくすというのは、全国的な方向性なのか。

⇒（事務局）

そうである。対象となる市町には、計画的・段階的に行っていただきたいと考えている。

議題3 令和6年度三重県国民健康保険事業費納付金の算定結果について

【議題3資料, 議題3別表1~3】

令和6年度国民健康保険事業費納付金の算定結果について説明し、原案に同意するとの答申を得ました。

(質疑応答)

・結論から言うと、被保険者数はどんどん減っていて、市町の納付金は増えている。市町の一人当たりの負担額は増えていくのだろうと思うが、将来にわたって持続可能な制度として存続できるのか。

⇒(事務局)

将来的にどうなるかは、納付金の算定の中で金額を確認していく。県としても、被保険者数の減少と1人当たり医療費の増加には、危機感を感じている。

・市町の負担が大きくなるということか。

⇒(事務局)

納付金に基づいて、市町は保険料率を決めていただく。標準保険料率というのは、納付金を払うのに必要な保険料率と考えていただきたい。

・この傾向は、三重県に限ったことではないのか。

⇒(事務局)

調査を行ったわけではないが、全国的に同じような課題を抱えていると聞いている。

議題4 令和6年度保険者努力支援制度の結果について

【議題4資料】

令和6年度保険者努力支援制度(市町村分)の結果について説明し、原案に同意するとの答申を得ました。

(質疑応答)

・市町によって、特定保健指導実施率にずいぶん差があるが、何が要因か。

⇒(事務局)

令和3年度の実施を評価されている。令和3年度は、コロナ禍で保健師の手が特定保健指導までは回らなかった状況があると考えている。

・これらの評価項目の中で医療機関等が協力できるのは、特定保健指導実施率の向上だと思うが、集団健診で簡易的な特定保健指導をすれば、実施率は上昇する。三重県の場合は、それぞれの医療機関が個々に行っているため、特定保健指導まで外来の時間内に手が回らないというのが現状だと思う。

特定保健指導は最低限どれだけのことをやれば特定保健指導を行ったと認められるのか、全国で行っている特定保健指導はそれぞれ違いがあると思う。特定保健指導の項目で必須項目とそうでない項目は何なのか一度検討したほうがよい。外来中に特定健診の結果を説明するというのがよいと思う。

⇒(事務局)

項目を整理し、検討していく。

(意見等)

なし